茨木市立　中条小学校　茨木っ子グローイングアップ計画

平成２９年１０月作成

1　３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック 保幼小中連携	自分力、つながり力を持って自立する子どもたち	・合同授業研の実施（養中） ・養精中ブロック保幼小中連携カリキュラムを活用し、日々の教育活動を行う ・授業研など他校種の授業参観 ・学校事務の共同実施	・前年度の振り返りと改善 ・合同授業研の実施 （小学校１校） ・小・小で統一した取組 ・他校種の様子を交流 ・保幼小中、異学年交流 ・学校事務の共同実施	・２年目までの検証 ・学びのシンポジウムの実施 （小学校１校） ・校種をこえて取組などで子どもと大人がつながる ・校種間の段差を低くする そのための交流をもつ ・学校事務の共同実施
確かな学力の育成	互いに学び合い、主体的に学習する子どもたち	・前年度の振り返りをふまえて目標を目指す。 ・小学校６年間中学校３年間を意識した「分かりやすく楽しめる授業」の実践を行う。 ・コミュニケーション能力を高める研究・実践をさらに進める。 ・学校で統一した授業スタイルを実践する。 ・情報機器を利用し、効果的な学習支援に努める。 ・読書活動を通して情操を養い、進んで学習する態度を養う。	→ → 中条小学校・授業スタンダードづくり → → →	→ →
豊かな人間性を育む	一人ひとりが輝き、共に学び合う子どもをめざして	・推進計画の作成 ・４委員会を中心に推進 ・校内研究授業（授業改善、授業に人権、集団・仲間作りの視点を入れる、ペア学習やグループ学習等） ・研修会の実施 ・各学年の人権カリキュラム、取組みの活用、推進。 ・各学年の総合カリキュラムの活用、推進 ・全教職員の人権意識の共通理解 ・道徳授業の教科化に向けた、学校体制の在り方の追求 ・安心して学べる環境づくり（人間関係、系統性のある人権学習の推進、授業規律等）	○初年度の取り組みの検証と、計画の評価と見直し → → → 教科となった道徳授業の充実 →	○２年間の取り組みの検証と、計画の評価と見直し → → → →
健康・体力の増進	意欲的に活動し、お互いに協力して運動を楽しむ子どもを育てる。	・校内実技研による授業力の向上 ・跳び箱・マットカリキュラムの改訂 ・縄とび月間などの全校的な活動の実施 ・体育教具の充実 ・全児童のスポーツテストの実施 （29 年度のみ）	→ → → → ４，５，６年のスポーツテストの実施	→ → → → ４，５，６年のスポーツテストの実施
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A
（領域ごと）
① 話すこと・聞くこと
大変良好な結果であった
② 書くこと
概ね良好な結果であった
③ 読むこと
良好な結果であった
④ 言語事項
大変良好な結果であった

（問題形式）
① 選択式
良好な結果であった
② 短答式
大変良好な結果であった
③記述式
出題なし
（無解答率）
良好な結果であった
（その他）

国語B
（領域ごと）
① 話すこと・聞くこと
大変良好な結果であった
② 書くこと
良好な結果であった
③ 読むこと
概ね良好な結果であった
④言語事項
出題なし

（問題形式）
① 選択式
良好な結果であった
② 短答式
大変良好な結果であった
③ 記述式
良好な結果であった
（無解答率）
良好な結果であった
（その他）

分析
・全ての領域において良好な結果であったが、他の領域に比べると、読むことについては応用問題において少し課題が見られる。
・基礎問題での書く力に少し課題が見られ、特に手紙の後付けの書き方に課題が見られた。学んだことが実生活で活用されていないところがある。
・「話すこと・聞くこと」の力が強い。

取組み
・朝の読書活動や読書週間の取組み、図書館支援員の配置により読み聞かせや図書室の整理、休み時間に図書室を開放するなど読書を楽しめる環境を作っている。
・各学年、音読の宿題やクラスでのスピーチの取組み、音楽劇などの発表会を行い、話す力を育む取組みをしている。
・各学年、あのね帳や日記、作文の取組みを行い、書く力を育む取組みをしている。
・国語・漢字の練習は毎日宿題に出し、間違い直し等こまめに指導を行っている

○●算数●○

算数A

（領域ごと）
① 数と計算
大変良好な結果であった
② 量と測定
大変良好な結果であった
③ 図形
大変良好な結果であった
④ 数量関係
大変良好な結果であった

（問題形式）
① 選択式
大変良好な結果であった
② 短答式
大変良好な結果であった
③記述式

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

算数B

（領域ごと）
① 数と計算
大変良好な結果であった
② 量と測定
大変良好な結果であった
③ 図形
大変良好な結果であった
④ 数量関係
大変良好な結果であった

（問題形式）
① 選択式
大変良好な結果であった
② 短答式
大変良好な結果であった
③ 記述式
大変良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

分析
全ての領域において大変良好な結果であった。

取組み
・中学年のつまずきの多い時期に、習熟度の取組みをし、丁寧な指導を行っている。
・日々の算数の実践を学年で共有し、教材研究を深めている。
・学校全体で算数科の問題解決学習に取り組み、実践報告や、研究授業を行い、各学年の指導方法やノートの書き方、児童の実態を交流し、研究を深めている。
・算数の宿題をどのクラスも毎日出し、間違い直し等こまめに指導を行っている。
・算数科においては、重点的に学習サポーターに支援してもらい、子どもたちのつまずきを減らせるよう取り組んでいる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析	学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析
例年良好な結果，大変良好な結果で推移しており，全国平均より高い位置を維持している。	昨年と比較すると学力高位層が増え、低位層が減っており、全国平均と比較しても、学力高位層は多く、低位層は少ない。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

・どの児童にもよく分かり，主体的に学習する授業のあり方を研究している。

・コミュニケーション能力の育成・取組みの研究をしている。

・朝の読書活動や読書週間で本を楽しむ機会を持ったり、本の紹介を掲示したり、子どもに購入してほしい本のアンケートを取るなど、読書活動の推進をしている。

・図書館支援員、図書委員会が連携し、休み時間に図書室を開放し、子どもが本に親しむ機会を増やしている。

・朝の学習を行うことで自分で学習する習慣をつけている。

・学習ごとに、本時のふりかえりを書いたり、つかんだことをまとめたりする取組みをしている。

・算数における習熟度別指導の実施をしている。

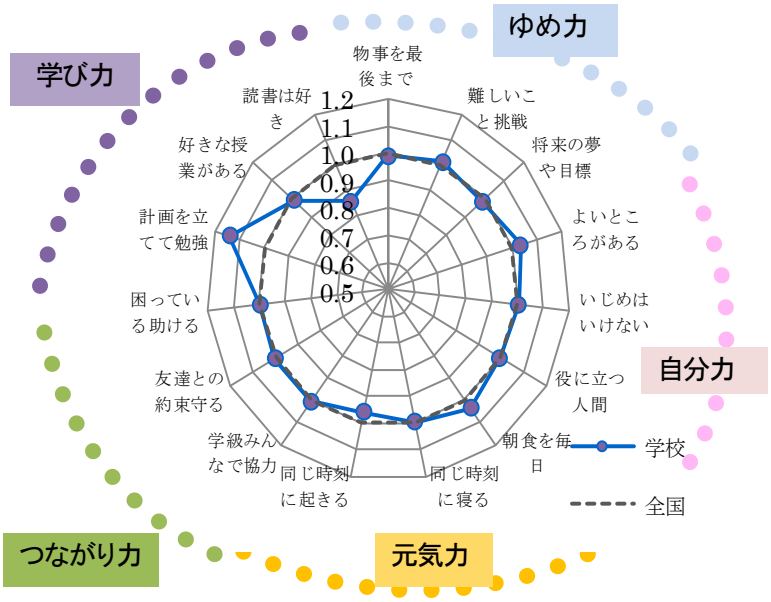
・算数科においては問題解決学習を校内で研究して意見交流を行い、全学年で研究授業や公開授業を行っている。

・支援チームと連携した個別の学習支援をしている。

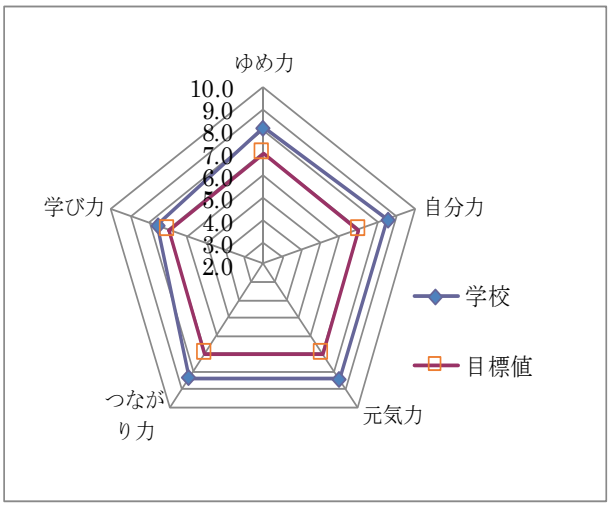
・情報研修も行い、デジタル教科書や書画カメラなどＩＣＴ機器の活用をしている。

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



分析

・学習に取り組む構えができており、計画性を持ち、自主的に学習に取り組む児童が多い。また、学習への関心、意欲も高い。

・友だちと協力し、助け合いながら学校生活を送っていることがうかがえる。

・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」とほとんどの児童が答えている。昨年度の３%から２%に減ってはいるものの、それに対してやや否定的な答えを出している児童がいる。低い割合ではあるが、いじめを許さない、見逃さないという姿勢を育てていく必要がある。

・「毎日決まった時間に起床する」のポイントがやや低い。

・「読書が好き」のポイントが低いという結果であったが、読書にかけられる時間が少なくなっているのではないか。

取組み

・人権を大切に，一人ひとりが輝き，共に学びあう子どもを目指している。

・スピーチやグループでの話し合い，聞き合う機会を設けている。

・日記や作文などで自分の思いを表現する機会を設けている。

・日々の学習活動に加え、体験学習・社会見学などを通して，学ぶ力・考える力・解決する力を身につけさせるよう努めている。

・学級文庫の交換やブックトーク、貸し出し本の予約制度や、おすすめの本を掲示するなど子どもたちが本を好きになるように取り組んでいる。

・生活指導上での問題については、朝会や学年、学級で児童への指導を続けていく。

・中条フェスティバル、ハッピー学級の交流を通して、高学年は、自立活動、自主性、創造性を育めるように、低学年は、高学年の活動により学校へ行くのが楽しくなるように繋げている。

・運動会での応援団や各役割での取組みを通して、高学年は責任感やリーダーシップを持つことができ、低学年は、高学年からの働きかけにより協調性を持つことができる。

・生活指導部会、特別活動部会で連携をして、廊下を歩きましょうの取組みをするなど、きまりをまもる意識を持たせるようにしている。

・日記、作文、学習の振り返りなど、自分の思いや考えを表現する機会を設けている。

・おとなしい児童が多いので、自分の考えを安心して話せるような雰囲気作りに努めている。

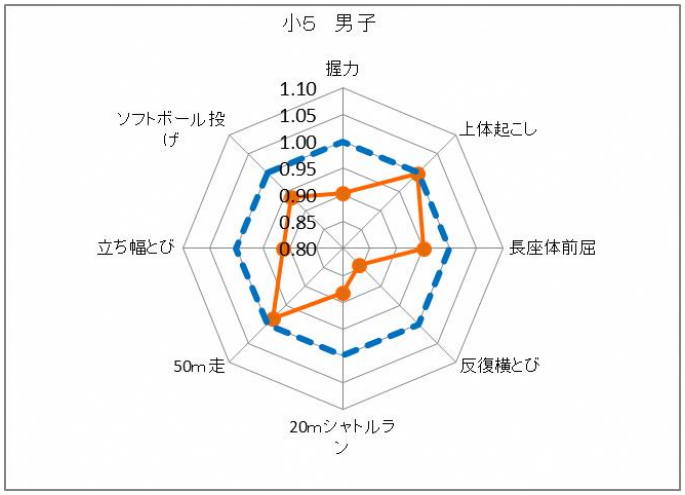
・身体測定の時に、養護教諭が保健指導を行っている。

・栄養教諭が、全学年に食育を行っている。

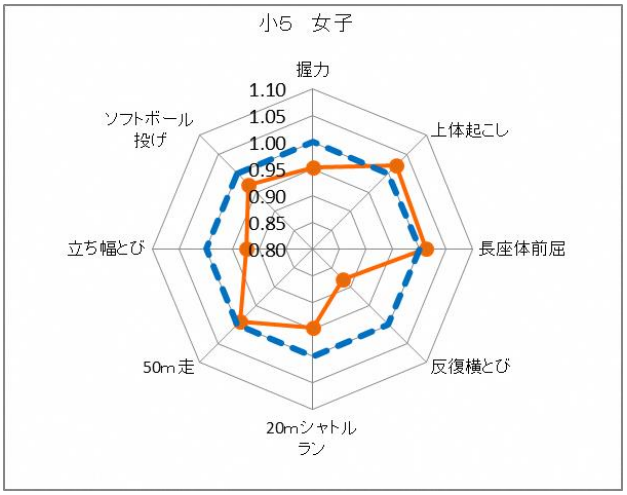
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

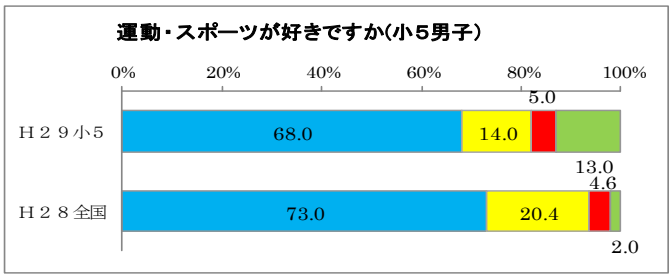
○●体力●○

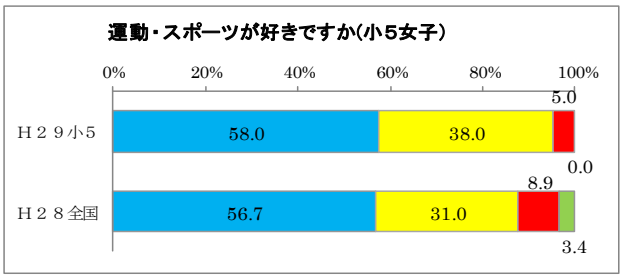
男子（小5）



女子（小5）







好き　やや好き　ややきらい　きらい

分析

・全体的に運動能力は低い傾向がある。
・男子は上体起こし以外、平均値を下回っている。
・女子は上体起こしと長座体前屈以外、平均値を下回っている。
・男女とも特に反復横跳びと立ち幅跳びに課題が見られる。
・上体起こしと５０m走では全国平均と同程度の水準である。
・アンケート結果より「運動・スポーツは好きですか。」の問いに対し、男女ともに肯定的な意見のほうが多いが、男子は年々下降傾向である。その一方で女子は、ばらつきはあるが毎年高水準を維持している。

取組み

・体力の実態把握、分析から水泳やボール運動などの実技研修を通して体力向上に取り組むよう努めている。
・運動会や縄跳び月間などの体育的行事を行い、児童が楽しく運動に取り組める機会を設けている。
・児童が安全で楽しく運動できるように体育用具を管理し、充実させている。
・学校と地域が一緒になって、体を動かす機会を設けている。
・茨木っ子運動Ⅱを授業の中で取り入れている。
・指導内容の学年交流をすることにより、学習の系統性を明確にしている。
・校内の体育部より６年間を見通しての指導内容のカリキュラム等が示され、どの領域も運動できている。
・今年度の分析結果から、苦手な運動領域の体力向上に向けて、休み時間などを利用し体力向上につながる運動遊びに取り組める環境を設定していく。